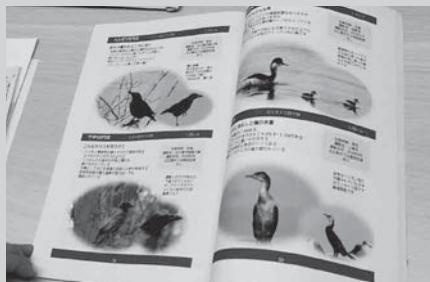


野鳥観察の楽しさを広めたい



自宅近くで撮影した、かわいらしい姿のシマエナガ



「野鳥との出会い」は、子どもにも読みやすいよう心掛けた



冊子「野鳥との出会い」

暖かくなり、野山に出掛けるのに適した季節を迎えた。市内の森や野原で、野鳥の写真を熱心に撮り続けるのは川手康弘さん。昨年は6年かけて撮りためた作品を冊子「野鳥との出会い」にまとめた。

野鳥の面白さと自然の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいと思いついた。観察時に自分の目で見た様子も書き添えて、親しみやすい内容だ。冊子は図書館とエコミュージアムセンター知新の駅で見ることが出来る。収録された野鳥は138種類で大部分は市内で撮影したものだ。冊子を見た方から「市内で見られる野鳥の種類が、こんなに多いとは知らなかった」と驚きの感想が寄せられたそう。

まちを好きになる市民大学

北広島で生まれ育った川手さん。

野鳥を撮影している写真愛好者

川手 康弘さん

かわて・やすひろ
新富町西在住。
まちを好きになる市民大学1期生で、現在OB会に所属。自然や動植物の調査をしている。
昨年、市内と近郊で撮影した野鳥の写真を冊子にまとめた。

仕事の関係で東京や札幌で暮らし、10年ほど前、北広島に戻った。道外にいた頃、知人から「北広島市は広島県じゃないの？ どんなまち？」と聞かれたことがある。当時は詳しく説明ができなくて歯がゆい思いをした。そのこともあって北広島に戻ってすぐ、まちのこころを深く知りたいたい、「まちを好きになる市民大学」1期生になり、歴史や自然などについて学んだ。修了後はOB会会員として活動している。「市民大学で学んだおかげで、今は胸を張って北広島はこんないいまちですよと詳しく説明できるようになりました。身に付けた知識は動植物の観察などに生かしている。

野鳥に魅了された

8年前、地元の子岳会に入会した。登山しながら周囲の自然を撮影するうち、野鳥の愛らしい姿や動きに興味を持った。種類や特徴、

巢の作り方、鳴き声など、知れば知るほど愛着は増した。

思いがけない出会いもあった。平成24年の秋、富ヶ岡の牧草地でタンチョウを見つけたことだ。撮影して専門家に問い合わせたところ、市内で目撃されるのは珍しい事例だったそう。新聞にも取り上げられた。

「自分の住んでいる周辺だけでもたくさん野鳥を見ることが出来るんです。北広島は自然観察に適していますね」と話す。

今月5日に広葉交流センターで「北広島市の自然と鳥たち」と題して講演をする。写真を基に解説する予定だが「気に入った写真が多すぎて選ぶのが大変なんです」と笑う。来場者に楽しんでもらえる講演会にしようと、張り切っているところだ。

これからも愛情あふれる写真で、野鳥観察の楽しさを伝えていくだろう。

*講演会については、本紙26ページをご覧ください。

